

新たな都市活力推進特別委員会
令和5年2月6日(月)

(案)

令和5年 月 日

横浜市会議長

清水 富 雄 様

新たな都市活力推進特別委員会

委員長 荻 原 隆 宏

新たな都市活力推進特別委員会報告書

本委員会の付議事件に関して、活動の概要を報告します。

1 付議事件

オープンイノベーション等による企業支援や誘致促進、グローバル都市の実現、文化芸術創造都市や観光・MICEの推進等に関すること。

2 調査・研究テーマ

横浜の魅力を活かした選ばれるグローバル都市・横浜の実現について

3 テーマ選定の理由

長期化するコロナ禍や緊迫する国際情勢、多方面にわたりグローバル化が進展する現代の中で、国際都市としての役割の重要性が再認識されており、都心臨海部における都市空間の優位性と文化芸術の創造性を活かした横浜らしい魅力の創出と発信が今まで以上に求められている。

そのために、国際社会におけるコロナ禍からの回復を見据えつつ、世界から訪れ、居住し、ビジネスに携わる人々が快適に滞在・生活できる多様性と包摂性に富んだ都市づくりや、世界で活躍するグローバル人材の育成、オープンイノベーションの促進、国内外からの誘客促進・MICE開催支援の取り組みを強化していく必要がある。

また、市内の既存施設や歴史的建造物の存在価値を再評価しながら、最先端技術を活用した先進的なまちづくりの取り組みにも注力していくことも重要である。

当委員会では、今年度はこのテーマに基づき、本市の取り組みの検証、他都市の取り組みの調査及び有識者からの意見聴取などを実施し、多方面に調査、研究を行うこととした。

4 委員会活動の経緯等

(1) 令和4年6月9日 委員会開催（第1回）

ア 議題

令和4年度の委員会運営方法について

イ 委員会開催概要

令和4年度の委員会運営方法及び今年度の調査・研究テーマ案について、委員間で意見交換を行った。その後、本年度の調査・研究テーマを「横浜の魅力を活かした選ばれるグローバル都市・横浜の実現」についてと決定した。

ウ 委員意見概要

- ・横浜を他都市と比べて、海外の人たちがぜひ来ようと思える、そういう魅力あふれるまちにするということは大変重要だと思う。より魅力あふれる横浜にすべき。
- ・横浜の文化芸術、その創造性を、市民一人一人が強く自覚し意識づけをして語れることが、世界に開かれたときに必要である。文化芸術の創造性を生かすのは難しいことだと思うので、今年度は特に力を入れて研究するべき。
- ・横浜の魅力を確認し、選ばれるグローバル都市を実現していくべき。横浜市民にとってもアウトプットが生きていくような、横浜の魅力を再認識できるようなものにするべき。

(2) 令和4年9月21日 委員会開催（第2回）

ア 議題

調査・研究テーマ「横浜の魅力を活かした選ばれるグローバル都市・横浜の実現」について

イ 委員会開催概要

調査・研究テーマに関連する本市施策等について所管局から説明を聴取し、意見交換を行った。

【所管局】国際局・経済局・文化観光局・港湾局

ウ 当局説明概要

(ア) ウクライナ情勢を踏まえた国際社会との連携

令和4年度の国際局運営方針では、選ばれる国際都市・横浜の実現に向

け、国際企画・多文化共生の推進、国際連携の推進、国際協力の推進という3つの施策を掲げている。

姉妹都市が他国からの攻撃にさらされ、本市が避難民を受け入れるという前例のない事態に際して、姉妹都市オデーサ市や、駐日ウクライナ大使館と緊密に連携を取りながら、そのニーズを受け止め、避難民支援と現地支援の両面の取組を進めている。避難民支援では、人と人をつなぎ、市民の方や民間事業者の方の申出を迅速に支援に結びつけており、避難民の方々に、安全・安心に暮らしていただくため、本市がハブとなり、オール横浜で取組を進めている。

- ▶ 市内在住のウクライナ国籍の方
105世帯に連絡し、呼び寄せ等の
意向を確認

- ▶ ウクライナ避難民 支援相談窓口を
設置（YOKEなど市内12か所）

累計相談件数 **683** 件

（8月末現在）



相談窓口の様子



相談に訪れたご家族



相談窓口の案内表示

（委員会資料から抜粋）

また、横浜市国際交流協会 Y O K E など、市内の12か所に、ウクライナ避難民支援相談窓口を設置している。Y O K E にはウクライナ人スタッフが常駐し、相談対応や同行による通訳支援などを行っている。ウクライナ交流カフェ「ドゥルーズィ」では、避難民同士が母国語で交流・情報交換し、安心感を得られる場、企業からの寄附などの申出を避難民の方につなぐ場、避難民御自身が主体となったイベントの開催など、交流の場となっている。また、オデーサ市の発案で、オデーサ市の柔道クラブと本市の柔

道協会等がオンラインで交流を行った実績があったことを踏まえ、オデーサ市からの要請により、柔道青少年14名の一時避難の受け入れを行った。7月から8月までの1か月半、横浜Y M C Aや市柔道協会などと連携し、市内の子供たちとの交流や、オリンピックメダリストとの稽古なども行った。

ウクライナ、オデーサ市への現地支援については、3月以降、市庁舎及び全区役所に募金箱を設置し、現地支援のための募金を行い、市民の方からお預かりした約2400万円の募金は、ウクライナ赤十字社を通じて現地に送金をした。このほか、横浜に避難された方々の支援として、約1500万円の募金をいただき、避難された方々の生活の一時金などの支援につなげている。

オデーサ市に、浄水装置の供与も行った。J F Eエンジニアリング株式会社から寄附いただいた浄水装置11台と、別途、本市が他社から購入した22台の合計33台の浄水装置を確保し、国際協力機構J I C Aの御協力を得て輸送し、7月にオデーサ市に届けた。8月には、オデーサ市による試運転や水質の確認などで活用が始まり、9月には水道施設が機能停止をしている近隣の都市ミコライウ市にオデーサ市から33台のうち5台が貸与され、実際に現地での水供給に使用されている。

(イ) グローバル人材の育成及び海外人材の呼び込み

グローバル人材の育成については、世代に応じた学習機会の提供をしている。小学生等を対象とした平和学習プログラム、教育委員会と連携し高校生を対象とした海外留学支援である世界を目指す若者応援事業、国連の邦人職員による大学生・高校生向けのオンライン講演会などを行っている。オリンピック・パラリンピックやアフリカ開発会議などの、大規模イベントを活用した国際教育・次世代育成も行っている。海外人材の呼び込みについては、アジア事務所を通じ、現地の大学とのネットワーク構築を進めている。世界から人材が集う街に向けた環境づくりの検討では、世界の人々にとって魅力あふれ、選ばれ続ける都市となることを目指し、国際人材から見た横浜のポテンシャル及び課題の整理や、国際人材ネットワークを活用した情報発信の強化などを、今後、進めていきたい

(ウ) 公民連携による国際技術協力を通じた海外都市の脱炭素化等の取組

海外インフラ需要の取り込みによる経済活性化として、市内企業との公民連携による国際技術協力 Y-P O R T 事業により、地球規模課題の解決につながる海外需要を横浜経済に取り込んでいる。市内企業の事業化実績は、平成23年度から令和3年度までで19件、事業費の累計で100億円以上を獲得している。

脱炭素をはじめとする地球規模課題解決への貢献では、タイ・バンコク、ベトナム・ダナンで、都市間の連携による脱炭素化事業を実施しており、市内企業の技術の活用により、新興国都市における温室効果ガスの排出削減やSDGs達成に向け、貢献をしている。

本市は、海外都市の都市課題解決について、計画段階から実施に至るまでJICAや市内企業と連携協力して支援をすることで、SDGs達成への貢献と、市内企業のビジネス創出につなげている。

また、Y-P O R Tセンター公民連携オフィス内に整備した情報発信・交流拠点G A L E R I Oを活用し、世界銀行やアジア開発銀行、市内の大学、一般社団法人Y U S A等と連携し、脱炭素など都市課題の解決につながるインフラビジネスの展開や次世代の育成を推進している。

海外都市の都市課題解決の計画段階から実施までをJICAや市内企業と連携して協力することで、SDGs貢献と市内企業のビジネスを創出

フィリピン・セブ都市圏での事例



開発計画策定への協力



JICA制度を活用した市内企業による現地調査・実証事業



市内中小企業による廃棄物リサイクルの事業化

(委員会資料から抜粋)

(エ) グローバルビジネス推進事業

グローバルビジネス推進事業として、経済のグローバル化を踏まえ、外国企業の横浜進出を支援するとともに、人口減少に伴う国内市場の縮小の中、市内中小企業の海外販路開拓を支援している。また、外資系企業と市内企業の連携を推進し、横浜のビジネス環境のさらなる魅力を創出することにより、外国企業の誘致と市内企業の国際ビジネス展開を喚起し、双方の促進につなげている。

外国企業の進出支援では、独立行政法人日本貿易振興機構や、海外事務所と連携し、外国企業に対して横浜のビジネス環境をPRし、市内進出を促進している。

外資系企業と市内企業・関係機関との連携強化では、市内進出後の外資系企業と市内企業の連携機会を提供することで、新たなビジネスチャンスやイノベーション創出を促進している。また、外資系企業と市内企業・関係機関との連携により相乗効果を生み出している事例を国内外にアピールすることで、さらなる外国企業誘致と市内企業のビジネス展開につなげている。市内中小企業の国際ビジネス支援については、公益財団法人横浜企業経営支援財団や海外事務所等と連携し、国際ビジネスに関する相談、展示商談会への出展支援、外国企業とのビジネスマッチングなどを通じて、海外販路開拓を後押ししている。

(オ) イノベーション都市・横浜の推進

イノベーション都市・横浜の推進については、革新的な技術やアイデアを基に社会課題の解決に挑戦する起業家・スタートアップの創出と成長の支援を行っている。グローバル拠点都市への選定や、オープンイノベーションプラットフォーム、I・TOP横浜、LIP横浜を生かし、産学公民の連携基盤横浜未来機構との協力の下、多様な人材や組織の交流から新たなビジネスを生み出すイノベーション都市・横浜を推進している。これにより、国内外からの人・企業・投資を呼び込み、横浜経済の持続的な発展を目指している。

事業の概要としては、スタートアップの成長・発展支援では、YOXO BOXを中核として、DXや脱炭素等の社会課題に挑戦するスタートアッ

プの成長を後押ししている。グローバル拠点都市の推進では、イノベーション人材の育成、組織や領域を超えた交流により、まちぐるみのイノベーションを推進するとともに、海外のイノベーションコミュニティとの連携や、海外への情報発信などに取り組んでいる。デジタルヘルスケア分野の中小企業・スタートアップ支援では、デジタルヘルスケアサポート拠点を活用し、今後成長が見込まれるデジタルヘルスケア分野で、新たな製品・サービスの創出に向けた支援を行っている。製品化・実用化に向けた支援では、新たな技術・製品、サービスの社会実装に向けた実証実験の支援や、海外の起業家支援組織と連携した支援プログラムの実施など、新技術等の製品化や実用化の後押しをしている。

(カ) 国内外からの誘客事業

国内外からの誘客事業は、人口減少・少子高齢化が進む中で、国内外からの誘客を促進することにより、交流人口及び観光消費額の拡大を図り、市内経済の活性化に寄与することを目的としている。

コロナ後を見据え、観光レップによる情報発信、市場把握、旅行会社へのセールス、市場の回復に応じた商談会への参加、O T Aを活用したプロモーション等を実施している。観光レップの取組として、海外誘客事業における現地拠点として、令和2年から中国と米国西海岸に設置し、リアルタイムな現地の情報収集、誘客の可能性に関する調査・分析、現地旅行会社へのセールスや情報発信等を実施している。

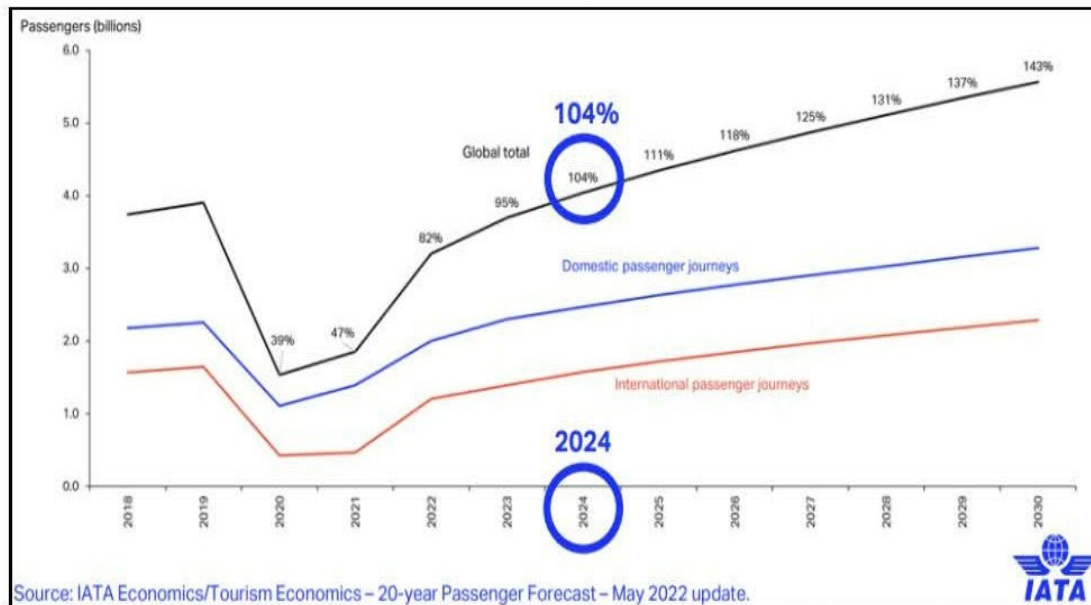
O T Aの取組としては、本市とシートリップは、中国などから横浜への誘客を推進することを図り、横浜の観光振興に資することを目的に連携協定を平成30年に締結し、横浜の観光情報の発信、魅力の開発及びマーケット分析等の訪日外国人旅行者向けプロモーションを実施している。

シートリップは、グローバルでは、T r i p . c o mグループとして展開し、中国だけでなく、世界31の国や地域でサービスを提供し、約4億人の会員を有している。

訪日観光再開スケジュールについては、本年6月から、外国人観光客の受入れが段階的に再開され、9月7日には、1日当たりの入国者数の上限が5万人になるなど、緩和されている。

IATAによるインバウンド回復の分析について、世界の航空業界全体の旅客数がコロナ前となる2019年の実績を上回るのは、2024年とされている。

長距離路線の旅客数の予測と2019年との比較

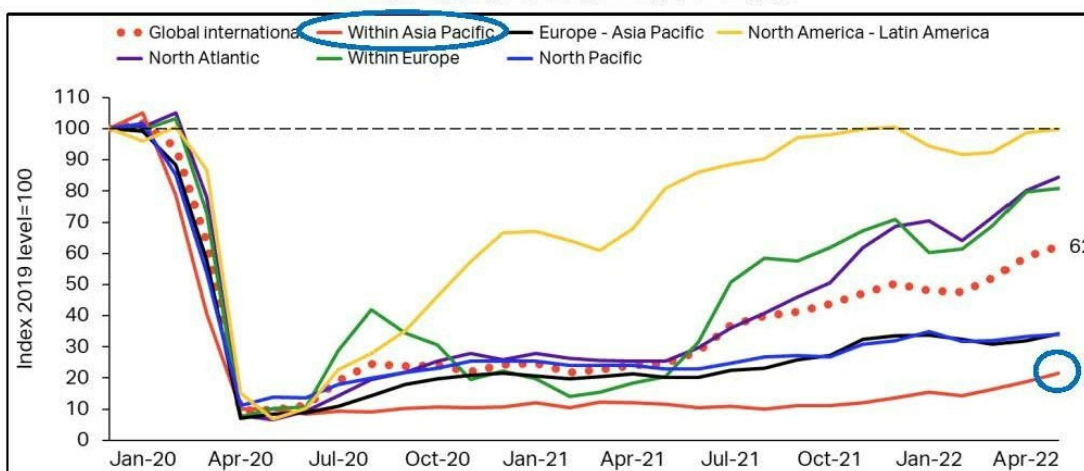


出典：IATA Air Passenger Forecasts

(委員会資料から抜粋)

一方、世界の国際線の水準は、2022年の5月にはコロナ前の62%まで回復しているが、アジア太平洋地域内は22%にとどまるとされていて、日本を含めたアジア地域の回復は比較的遅くなっている。

IATAが航空機便数や座席数から算出した指数



出典：IATA Economics' Chart of the Week 27 May 2022

(委員会資料から抜粋)

(キ) クルーズ客船の受入れ

クルーズ客船の受入れは、関係機関と連携しながら、引き続き新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、安全・安心なクルーズ船の受入れを行う。令和3年も積極的な受入れに取り組んだ結果、瀬戸内海を巡る観光船に次ぐ国内第2位の72回の客船寄港回数となり、こうしたクルーズ船の寄港による観光を市内経済の活性化につなげていくため、みなとみらい21地区等において、歩行者の回遊性向上やにぎわい施設の改修等に取り組んでいる。

(ク) 賑わい施設や回遊動線の整備・改修

ハンマーヘッドパークの整備については、日本初の商用荷役用のハンマーヘッドクレーンをシンボルとし、歴史性を感じられる緑地として整備を行った。現在、多彩な演出が可能なLED照明によるライトアップ設備の設置を進めている。

赤レンガ倉庫の改修については、赤レンガ倉庫は令和3年度の外壁工事に続き、令和4年度は空調設備等の更新を行っている。開業20周年のリニューアルオープンに向け、クリスマスシーズンまでの完成を目指している。

帆船日本丸の改修及び横浜みなと博物館リニューアルについては、帆船日本丸は、平成30年度から2か年にわたる大規模改修を行い、横浜みなと博物館については、国内初の常設体験型VRシアターの導入など令和4年6月にリニューアルオープンした。

設置等許可制度を活用した民間活力のさらなる活用として、令和3年8月にカップヌードルミュージアムパークにグランピング施設がオープンし、令和5年度に臨港パークにカフェ・ランニングステーションが整備される予定である。

臨港パーク先端部の整備については、みなとみらい21地区の開発の総仕上げとし、臨港パークの緑地先端部の整備を進めている。先端部には親水護岸の整備を行い、シンボリックな展望ゾーンを設ける予定となっている。また、栈橋や藻場・浅場等の造成も行っていく。

回遊動線の整備については、市民の安全・快適な歩行者空間を確保し、地区の回遊性向上を図るため、新港サークルウォークと新港ふ頭客船ターミナルを結ぶ新港歩行者デッキ、また、パシフィコ横浜と臨港パークの接

続デッキの整備を進めるなど、より一層の回遊性の向上に取り組んでいる。

1 クルーズ客船の受入れ

関係機関と連携しながら、引き続き新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、安全・安心なクルーズ船の受入れを行います。令和3年も積極的な受入れに取り組んだ結果、瀬戸内海を巡る観光船に次ぐ国内第2位の72回の客船寄港回数となりました。

こうしたクルーズ船の寄港による観光を市内経済の活性化につなげていくため、みなとみらい21地区等において、歩行者の回遊性向上や賑わい施設の改修等に取組みます。

1	ベネズエラマリーナ (広島県)	82
2	横浜	72
3	神戸	24
4	宮島	18
5	笠島港 (香川県)	15
6	名古屋	14

2 賑わい施設の整備・改修

(1) **ハンマーヘッドパークの整備**
日本初の商用後役用のハンマーヘッドクレーン(1)をシンボルとして、歴史性を感じられる緑地として整備しました。現存、多様な演出が可能なLED照明によるライトアップ設備の設置を進めています。

(2) **赤レンガ倉庫の改修**
赤レンガ倉庫(2)は令和3年度の外壁工事に続き、令和4年度は空調設備等の更新を行っています。開業20周年のリニューアルオープンに向け、クリスマスシーズンまでの完成を目指しています。

(3) **帆船日本丸の改修及び横浜みなと博物館リニューアル**
帆船日本丸は、平成30年度から2か年に渡る大規模改修を行い、横浜みなと博物館(3)は、同年初の常設体験型VRシアターの導入など令和4年6月にリニューアルオープンしました。

(4) **販促等許可制度を活用した民間活力の更なる活用**
令和3年8月にカップヌードルミュージアムパークにグランピング施設(4)がオープン、令和5年度に臨港パークにカフェ・ランニングステーション(5)が整備される予定です。

(5) **臨港パーク先端部の整備**
みなとみらい21地区の開発の総仕上げとして、臨港パークの緑地先端部(6)の整備を進めます。先端部には親水護岸を整備し、シンボリックな展望ゾーンを設けます。また、秋桜や落葉・浅瀬等の造成も行います。

3 回遊路線の整備

市民の安全・快適な歩行者空間を確保し、地区の回遊性向上を図るため、ウォークウォークと新港ふ頭客船ターミナルを結ぶ**新港歩行者デッキ(7)**や、パシフィコ横浜と臨港パークの**接続デッキ(8)**の整備を進めます。

4 人を呼び込む賑わい創出の取組

街歩きガイドブックの配布や、スマートフォン向けアプリによる音声ガイド付き案内サインを観光拠点に新たに設置しました。

また、臨港パークから山下公園までの水際線約5kmに、サインを路面に表示し、ウォーキング・ランニングのためのコースを設定しました。さらに、7月に民間事業者と連携し、カップヌードルミュージアムパーク～赤レンガパーク間の水際線約1kmでマーケットを開催しました。第2回目を10月8日から3日間、同エリアで開催します。今後、定期的に開催し、臨港パークから山下公園まで、エリアを拡大していく予定です。

【ハンマーヘッドパーク】

【赤レンガ倉庫】

【グランピング施設】

【ウォーキングイベント 神奈川大学の駅チカチーム】

【ベイウォークマーケット】

(委員会資料から抜粋)

(ケ) 人を呼び込む賑わい創出の取組

街歩きガイドブックの配布や、スマートフォン向けアプリによる音声ガイドつき案内サインを観光拠点に新たに設置し、臨港パークから山下公園までの水際線約5キロメートルに、サインの路面表示を行った。また、ウォーキング・ランニングのためのコースの設定も行った。さらに、7月には民間事業者と連携し、カップヌードルミュージアムパークから赤レンガパーク間の水際線約1キロメートルでマーケットを開催した。そして、第2回目を10月8日から3日間、同エリアで開催予定である。今後も、定期的に開催するとともに、臨港パークから山下公園まで、順次、エリアを拡大していく予定である。

エ 委員意見概要

- ・ウクライナ避難民の受け入れという形で、オーダーサ市、あるいはウクライ

ナとの関係ができた。これを基に、留学生の受入れなどを含め、さらに交流を進めていくべき。

- ・インバウンドの回復というのが、横浜経済にとって極めて重要な位置にある。インバウンドの回復に向け、しっかり取り組んでいくということが、外国の方々にとっての魅力向上や、横浜市内経済の回復につながるので、積極的に取り組んでいくべき
- ・見える形でウクライナを支援しているというのは、市民として大変頼もしい。横浜全体で支援しているということを伝えていくべき。
- ・横浜に立地している国際機関と横浜の経済が連携する事で、企業グレードを上げる、名前を上げるなどできるので、力を入れて取り組むべき。
- ・横浜港が外国人の方にとっても、安全・安心の場所であるということが大前提で、本市は安全なまちをつくっているということが、誰にでも分かるように取り組むべき。
- ・円安等、さまざまな要因があると思うが短期的な部分と、中期的な部分で迅速に施策に反映していくべき。
- ・海外へ出ていく若者が増えることによって、横浜の魅力が海外に伝わり、還元もされるので、引き続き支援するべき。
- ・横浜らしい魅力を生かした取組が各局事業で推進されている。インターナショナルスクールなどのネットワークを駆使して情報発信することはすごく大切だ。
- ・滞在型観光で横浜に来られた方々は、様々な発信力があるので、インフルエンサーとしてキャッチして、横浜で過ごしてもらい、発信してもらうべき。
- ・在住外国人に対し、生活に密着した情報発信や情報提供をしていくべき。外国の方が横浜に住んでみたら、いまいちで、他都市に引っ越してしまうということがないように、横浜に来てよかったと、思うようにしてほしい。友人や親戚や家族を横浜に招きたい、遊びに来てほしい、一緒に住みたいと思えるような、選ばれるグローバル都市・横浜になるべき。
- ・都市活力イコール横浜市内の様々な事業所の活力である。その事業者の活力は、もうけることだと思う。技術協力や、海外展開をしているが、ここ

からいよいよ商売というところで何かその事業が終わってしまうことがあったと思う。中小企業の皆さん方とともに、次の一步、次の一手を目指し、商売に結びつけて、もうける、稼ぐという視点で、各局にもお願いをしたい。

- ・環境関係で海外視察に行ったときに、1人あたり資料込みで10万円近く視察費がかかった。環境に取り組むその姿勢や、取り組んでいる具体的な事業を披露することによって、観光ではなくとも世界や国内から誘客でき、環境関係は稼げるなどと思った。本市でも環境未来都市や、脱炭素条例、経済局のスタートアップやカーボンニュートラルレポートの取組も、脱炭素をテーマにしているので、技術協力などはもちろん大事なことだが、ぜひ稼ぐというテーマもどこかに受け止めながら、民間事業者さんと協力し、様々な事業を進めていっていただきたい。
- ・中国国内で3～4億人が旅行サイトで横浜を見ているならば、コロナ禍が明けての誘客準備も大事だが、サイト上でプロモーションし、家にいながらにして横浜の名産品を購入してもらうのもいいのではないか。そこでも地元の中小企業の方と協力し、選ばれる都市を目指していっていただきたい。
- ・これからコロナ禍が落ち着き、いろいろな制限が解除されると、各都市、各国の企業や観光客も動き出す。今ここで仕掛けて、横浜の今ある強みを分析したり、魅力をもっとPRしたり、その辺を、ほかの都市に遅れないようにうまくやっていかないと、今までの課題の二の舞になる可能性が十分あると思うので、十分気をつけてやっていただきたい。

(3) 令和4年11月29日 委員会開催(第3回)

ア 議題

参考人の招致について

イ 委員会開催概要

本委員会の付議事件に関連して、参考人からの意見聴取を行うことを決定した。

参考人：アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター 所長
ブルース バートン 氏

案件名：選ばれるグローバル都市に向けた横浜市の魅力について

(4) 令和4年12月1日 委員会開催(第4回)

ア 議題

(ア) 選ばれるグローバル都市に向けた横浜市の魅力について

(イ) 調査・研究テーマ「横浜の魅力を活かした選ばれるグローバル都市・横浜の実現」について

イ 委員会開催概要

参考人のバートン所長から講演をいただいた後、質疑を行い、参考人招致後に、委員会報告書構成案及び報告書のまとめについて意見交換を行った。

ウ 参考人講演概要

(ア) アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター(IUC)とは

IUCの名称は、インターユニバーシティセンターの略である。世界で唯一の上級日本語教育に特化した教育機関であり、主に大学院生を対象に上級日本語を教えている。前身となるスタンフォードセンターが1961年にでき、2年後に北米のほかの有名大学が加わり、現在に至るまでコンソーシアム、連合体として運営してきた。

スタンフォード大学が事務局になっており、ほかの加盟大学も全て大きな研究型の大学で日本研究に非常に強いという特徴がある。日本語教育のニーズは高いといえる。

加盟大学から来ている学生は約半分である。加盟大学以外の大学や大学院、大学以外から来ている生徒もいる。

IUCの使命は、学生たちを徹底的に教育して、卒業後も、研究者や他の職業でも、プロフェッショナルなレベルで日本語を使えるようにさせるということである。日本人と肩を並べて日本語で仕事ができる人たちを育成するという目標を掲げている。

設立から60年近く経っているため卒業生が多数おり、今では、3000人近くに上る。政治学者のジェラルド・カーティス氏や、日本のテレビで活躍し、有名になったロバート・キャンベル氏も卒業生である。

IUCはもともと東京の国際基督教大学の中にあった。その後、都内の移転を経て、横浜市の誘致により、1987年に横浜市に移転した。最初の

3年間は桜木町駅近くのビルに、パシフィコ横浜ができた1991年にパシフィコ横浜に入居し、現在に至る。

(イ) 私から見た横浜

横浜の歴史は、幕末、明治時代から始まる。横浜の役割は、時代は異なるが、私が専門とする古代中世の日本とアジアとの対外関係史における九州の太宰府とよく似ている。

横浜市は、人口は東京都23区に次ぐ数で大阪市よりも多く、日本では第二の都市だといえるが、そのように認識している人が少ないのが現状である。日本人でも、留学生でも、そのような認識はあまりない。

横浜市は港町、貿易港というイメージが非常に強い。同様の都市として、国内では福岡市や神戸市、函館市などが挙げられる。海外では、サンフランシスコ、シアトル、ボストン、バンクーバー、香港などがある。これらの共通点は貿易港であるが、観光地としても有名な都市となっている。他のグローバル都市と比べる事で、グローバル都市の特徴や、どこがいいのか、あるいはどこが悪いのかを決める一つの基準となる。



私から見た横浜 グローバル都市の特徴

- 優れた交通アクセス
- 象徴・目印となるような建造物
- きれいなスカイラインや夜景
- きれいなウォーターフロント
- 歴史的建造物
- 第一級のホテルやレストラン
- 博物館、美術館、オーケストラ、劇場
- プロスポーツチーム、スタジアム
- 公園、動物園、水族館
- 一流大学
- 本社を置く有名企業
- 移民コミュニティー
- お祭り、花火大会など
- 特産品、特徴ある料理

(委員会資料から抜粋)

交通関係では、どの都市にも優れた交通アクセスがある。空路については、例で挙げたグローバル都市の全ての都市には国際空港があり、この点だけは他のグローバル都市と比べると大きな相違点となっている。羽田空港が近くにあることが理由であろうし、無いから不便というものではない。陸路に関しては、全く見劣りはしない。高速道路はもちろんのこと、どのまちにも負けない公共の交通手段がある。電車、地下鉄、バス等で、横浜のどこに行こうと思っても簡単に行くことができる。

全てのまちではないが、グローバル都市の特に観光地となると、中心部に少し特徴のある交通手段がある。サンフランシスコだとケーブルカー、シアトルではモノレールなどが挙げられる。港町とは違うが、ホノルルにも観光客が無料で乗れるような周遊バスがある。横浜にもバスや船にもなる、スカイダック横浜がある。全く同じ物、同じ名称の交通手段がシアトルにもある。また、YOKOHAMA AIR CABINもあり他のグロ

ーバル都市に負けない交通手段が発達している。

目印になるような象徴的な建造物では、シアトルのスペースニードル、サンフランシスコのゴールデンゲートブリッジ、またはトランスアメリカピラミッドなどを思い起こすことができる。横浜では、ランドマークタワーやインターコンチネンタルホテル、ベイブリッジもあり、こちらも見劣りはしない。高層ビルだけは、ボストンやシアトル、サンフランシスコに比べると少ないといえるが、決して悪いことではない。横浜の夜景は大変きれいで、特に観光客からすると、夜景も大事な要素である。

臨港パークや大さん橋、横浜ハンマーヘッド、山下公園など、ちょっと独特で近代的なウォーターフロントもある。サンフランシスコやシアトル、バンクーバーは、古い栈橋、埠頭などで漁船が来たり、シーフードを売ったり、シーフードのレストランが立ち並ぶ風景がある。横浜のウォーターフロントはそれらとは少し違うものの、とてもきれいでよいと思う。

歴史的建造物も負けていない。古いれんが造りの建物など、独特な雰囲気と味がある。横浜の歴史を市がとても大切にしているというイメージを、観光客に与えることができるだろう。

レストランも多く、毎食時違うお店を選んで食べても尽きないくらい、各国の料理があり、多様的である。ホテルもみなとみらいをはじめ、有名な世界級のホテルがある。

博物館、美術館、オーケストラ、劇場についても同様で、工事中の横浜美術館をはじめ、神奈川県立歴史博物館や横浜開港資料館など多数ある。他にも横浜みなとみらいホールでコンサート、神奈川県民ホールでバレエやオペラを楽しむことができる。K A A T神奈川芸術劇場や、神奈川県立音楽堂、横浜能楽堂などもある。海外の有名な都市、観光地にも同様な施設があるが、横浜は負けていない。海外にない能楽堂は、日本の味を出すものであり、観光客にとっても魅力あるものであろう。

スポーツについても、横浜にも多くのプロスポーツチームがあり、多くの観客を収容できるスタジアムもある。公園も多く、動物園や水族館もある。大学も多い。移民コミュニティは海外の多くの港町にあり、横浜で言うべきは中華街である。観光地にもなっている中華街は、横浜市にとつ

て、とても大きなリソースである。

一方、横浜には、本社を置く大企業、有名企業は少なく、地理的に仕方がないことではあるが多くの企業の本社は東京にあるという場合が多い。

結論として、横浜はすばらしいまちであり、加えて海外の都市にあるような問題が横浜にはない。アメリカの都市と比べると、犯罪は少なくごみもあまりない、きれいなまちになっている。格差問題はあるが、海外ほどではない。アメリカの都市だと英語ができなければ、できないほうが悪いという厳しい風潮があるが、横浜は外国人の意見を聞き、窓口や横浜市国際交流協会等でサービスを提供してくれるため、外国人にも優しいまちになっている。

(ウ) I U C の学生から見た横浜

I U C の学生に簡単なアンケート調査を行った。

a 横浜の気に入った場所

一番多いのはみなとみらいで、次に野毛町、山下公園、臨港公園、横浜駅とその周辺、桜木町、中華街、赤レンガ倉庫、元町、岸根公園という結果になった。これにはバイアスがかかっている。あくまでも調査対象者はふだん朝から晩まで勉強をし、自宅と I U C センターの往復が多い I U C の学生であり、観光客にアンケートをとったものではない。



(委員会資料から抜粋)

b 学生から見た横浜の良いところ (順不同)

- 買物ができるデパートが多く、海に近いところがいい。
- オープンスペースがある。
- スポーツチームの大きなポスターは見るたびに楽しませてもらえる。
- 文化や食の多様性があり、中華料理、メキシコ料理、東南アジアの料理、アメリカ料理、沖縄料理等が楽しめる。
- 自然豊かで、英語の標識が多く、英語でのアナウンスも多く住みやすい。
- まちがきれいに清掃されている。
- みなとみらいのスカイラインやウォーターフロントが美しくきれい。
- みなとみらいは、とても近代的でポケモンの映画に出てきそうな舞台にいるような気がしてワクワクできる。
- 市民にフレンドリーな人が多く、みんな優しい。道に迷ったら助けてくれる。
- 親のようにかわいがってくれる人がいる。

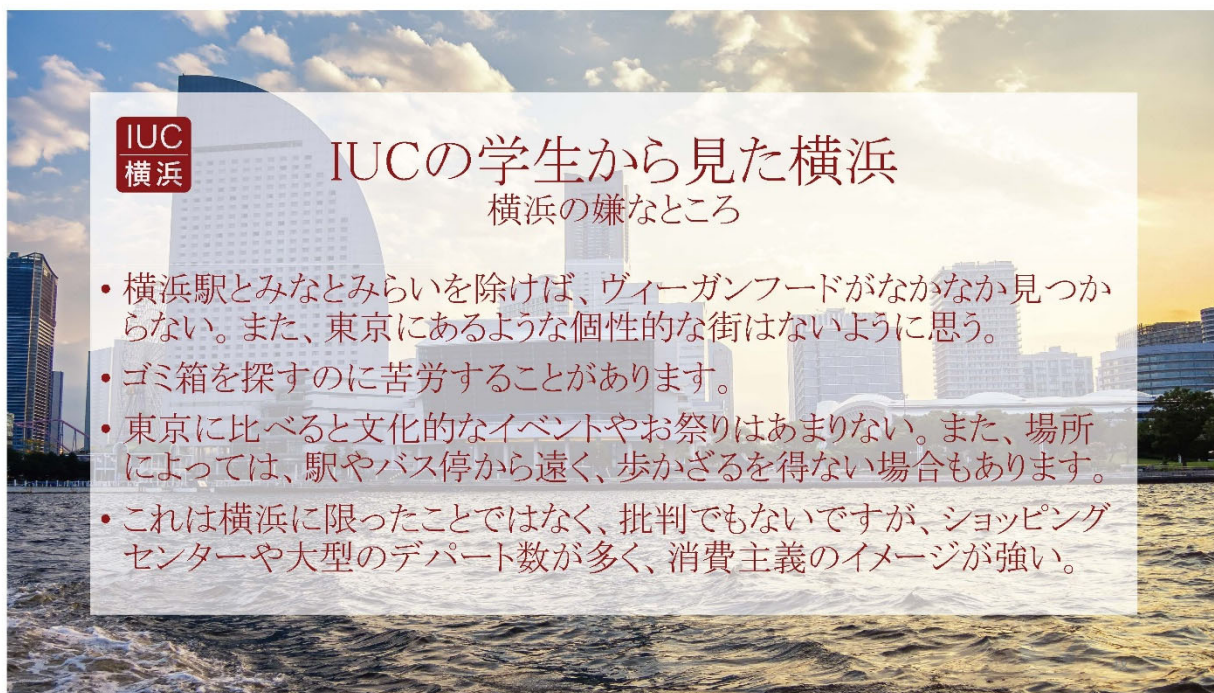
- ・外国人にも優しく、英語で話しかけてもらえることが多い。

みなとみらい周辺の町並みや、景観に対する感想と市内の飲食店に対する感想が多く、特に飲食店は、様々な料理が食べられ、飽きが来ないという感想が非常に多かった。

c 学生から見た横浜の嫌なところ（順不同）

- ・ベジタリアンからしたら、ヴィーガンフードがなかなか見つからない。
- ・東京にあるような個性的なまちが少ない。東京は中心になるようなまちが幾つもある。新宿や渋谷、品川、東京もある。横浜もいくつかはあるが、東京ほどではない。
- ・東京に比べると、文化的なイベントやお祭りはあまりない。
- ・坂が多い。
- ・街灯が少ない。夜遅く外出すると、帰宅するのが怖い。
- ・公共交通機関が高い。

多国籍な料理が食べられる面では多様性があるといえるが、ヴィーガンフードなどの食文化の多様性が少ないとの感想が多かった。坂が多く、公共交通機関を利用しようとしても、金額が高く利用しづらく歩くことになるといった意見もあった。



IUC
横浜

IUCの学生から見た横浜

横浜の嫌なところ

- ・横浜駅とみなとみらいを除けば、ヴィーガンフードがなかなか見つからない。また、東京にあるような個性的な街はないように思う。
- ・ゴミ箱を探すのに苦労することがあります。
- ・東京に比べると文化的なイベントやお祭りはあまりない。また、場所によっては、駅やバス停から遠く、歩かざるを得ない場合もあります。
- ・これは横浜に限ったことではなく、批判でもないですが、ショッピングセンターや大型のデパート数が多く、消費主義のイメージが強い。

（委員会資料から抜粋）

(エ) 横浜を魅力的な街にするための取組

ハード面での横浜は、他のグローバル都市に負けないくらい整備されている。新しい施設や観光資源を作るのも大切だが、コロナ禍や多様性を考えるとソフト面の整備も必要になってくる。

交通面では、市内の駅や近隣のターミナル駅から、観光地への直行シャトルバスがあると観光客は来やすいのではないかと思う。乗れば目的地に着くというのは、国内外を問わず誘客につながると思う。また、レンタサイクルも他のグローバル都市では普及している。北米の多くのまちでは、無料で借りられる自転車が置いてあり、活用できるようになっている。横浜にもあるが、主にみなとみらい周辺にあり、市内全域には行き届いていないので拡大することで一つの移動手段となりうる。

また、観光客をもっと呼びたいのであれば、ヴィーガンやグルテンフリーのレストランを増やすべきである。食も誘客効果があると思う。安心して食事ができることで、観光客やビジネスで来る人は、安心して横浜に来ることができ、様々な人を呼び込むことができるはずである。

市の中心地にもっと大学があってもよい。海外では、大学と産学連携によるリサーチパークのようなものが結構ある。サンフランシスコではないが、その郊外にあるシリコンバレーが有名な例で、母校であるスタンフォード大学が、周辺企業と連携して研究開発を行い、当地の経済の原動力になっている。

エ 参考人意見聴取に関する委員意見概要

- ・食の面では、野毛だけでも570もの店舗があり、これは横浜としての武器になると思う。また、歴史のある鎌倉と近代的な横浜が連携をして、海外の方に観光に来てもらうパッケージングも有効だと思う。
- ・外国人に選ばれるためには、外国人の需要に対応することがすごく重要だと思う。ヴィーガン食やハラールは、日本人に比べると需要の割合がかなり高いと思うので、そういったものがすぐ分かるような、仕組みをつくるべき。
- ・環境という観点からも、なるべく自動車などを使わず、公共交通や自転車を使用する動きがあるため、そういった面でも国際的な感覚に合わせて、

と整備を進めていくべき。

- ・ポイ捨ての問題など、外国の方から見て気になるところは、民間活力も利用しながら、直していくことで本市の魅力が高まると思うので、取り組むべき。
- ・横浜市を挙げて何か月間にもわたって取り組んでいる、横浜音祭りやダンス・ダンス・ダンス、トリエンナーレなどの芸術分野での取組を、もっとアウトプットしていくべき。
- ・これから横浜をグローバル都市にしていくためには、学生への教育や、人づくりが重要になっていくので、外国語に対する勉強意欲が高い人へのサポートを検討すべき。
- ・横浜というまちが知られていないというのが課題である。プロスポーツチームも多いので、トライアスロンなども含めて、スポーツを骨格としたまちという視点も検討すべき。
- ・留学生などの二十歳前後の若い学生に、日本の原体験みたいなものを横浜で得てもらう機会がこのままでは減ってしまう。いかにそれを増やせるかが、大人になり将来また横浜を選んでもらうという意味では非常に重要である。そのために留学に来てもらう機会を本市が大学と連携してアプローチしていくべき。
- ・横浜からも数々の文化が発信されているが、そういう文化の発信を通じた形で横浜の魅力を若い人に伝えて、それをまたもってして横浜に住みたいと、横浜に観光に行きたいと思えるような取組をするべき。

オ まとめに関する委員意見概要

- ・横浜の財産は人だと言われているので、ハードの面ではなくソフト面で他都市と差別化を図っていくのが、横浜らしい取組ではないのか。海外からの学生たちが横浜で学ぶために、連携するのもひとつあると思う。横浜の子供たちがどんどん、世界に羽ばたいていくことで、それがグローバル都市につながると感じた。
- ・様々なイベントや交流ができる情報や、直近の食のニーズなどに、タイムリーに対応していく情報発信の在り方というものも、グローバル都市・横浜の魅力を発信する上ですごく大事である。国際交流ラウンジなど様々な物

はあるが、どうマネジメントしていくのかというのが本当に求められている。国際都市間の競争を勝ち抜くために、国際交流拠点の整備を進めていくべき。

- ・ハード面では充足してきているという意味では、次はソフト面が課題となる。ありていに言えばおもてなしが今後の課題だと感じた。ハード面の整備のみならず、様々なニーズに沿った魅力の発信や、行き届いた支援を行うことで選ばれるグローバル都市になると思うので、力を入れて取り組むべき。
- ・ターゲットを絞るとするのは、1つの大きな問題だと思う。観光、定住、留学、ビジネス、企業誘致も含めて、どのような面での横浜の魅力なのか、対象は誰なのか、それを明確に分けて、その対象のための取組を行うべき。
- ・横浜としての魅力の深掘りをやっていくことが重要である。横浜はこんなところだと伝わるような、世界に向けての発信の仕方をそれぞれ研究し、発信していくべき。
- ・定住や留学など、若年層の一人で来られる方に対しての支援に、本市が直接関わるのは難しいと思うが、海外から来られる方々にとって横浜が安心して過ごせる場所作りをするべき。

(5) 令和5年2月6日 委員会開催(第5回)

当日の概要を記載

5 横浜の魅力を活かした選ばれるグローバル都市・横浜の実現についてのまとめ
今年度は、「横浜の魅力を活かした選ばれるグローバル都市・横浜の実現」を調査・研究テーマとし、当局からの説明聴取や参考人招致等を行い、様々な立場の方からの意見を伺うことで、長期化するコロナ禍や緊迫する国際情勢、多方面にわたりグローバル化が進展する現代の中、どのような施策を推進していくべきか、調査・研究を行った。その結果、以下の視点を踏まえてまちづくり等を進めることで、選ばれるグローバル都市へと発展させる必要があるとの結論に至った。

(1) 本市を取り巻く状況

人口減少・少子高齢化が進む本市においては、国内外から選ばれることで、誘客が促進されることにより、国際人材の呼び込みや観光消費額の拡大、市内経済の活性化に寄与することができると考えられる。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行により、国内外を問わず観光客は大きく減少した。観光キャンペーン等の影響もあり、ここ最近は回復しつつあるが流行前の数字までは回復しておらず、世界の航空業界全体の旅客数も、新型コロナウイルス感染症の流行前の実績を上回るのは、2024年ごろになるとされている。そして、世界の国際線における旅客数の水準は、2022年の5月にはコロナ前の62%まで回復しているものの、アジア太平洋地域内は22%にとどまるとされ、日本を含めたアジア地域の回復は比較的遅くなっているという状況であり、コロナ前の水準まで完全に回復するまでにはかなりの時間を要することが予想される。

(2) グローバル都市実現に向けた取組及び方向性

ア 国際連携、国際協力、多文化共生

本市は、ウクライナ情勢に関して、姉妹都市オデーサ市への現地支援と避難民支援の両方を進めている。グローバル都市横浜の魅力という点で、こうした支援の取組をより前面に押し出し、見える形で、一層多くの人に伝えていく必要がある。

都市活力イコール横浜市内の事業所の活力であり、技術協力、特に脱炭素等の環境関係では、海外からの注目度も高く、稼ぐというテーマも受け止めながら、民間事業者と協力し、さまざまな事業を進めてくことも重要である。また、横浜に所在する国際機関と民間事業者との連携促進にも取り組んでいく必要がある。

在住外国人の生活に密着した情報発信や情報提供を行うなど、横浜に来てよかったと思えるようにすべきである。また、留学生などの海外の若い世代が、日本の原体験を横浜で得るような機会を増やしていくことは、将来また横浜を選んでもらうという意味でも、非常に重要である。一方、横浜の子供たちが世界に羽ばたくことも、グローバル都市としての魅力向上につながるため、意欲のある学生だけでなく、幅広い人材育成が必要である。

イ イノベーションの推進や港の整備

本市では、グローバルビジネス推進事業として、市内中小企業の海外販路開拓や海外企業の横浜進出を支援し、横浜のビジネス環境のさらなる魅力を創出している。多様な人材や組織の交流から新たなビジネスを生み出すべくイノベーション都市・横浜を推進し、国内外からの人・企業・投資を呼び込み、横浜経済の持続的な発展を目指している。イノベーションやグローバル化の支援など、すでに本市としても多くの支援があるが、今ある支援を、より多くの人に利用してもらえるようにしていくことが求められる。市内の民間企業と起業家や海外をつなぐ場や、学生と市内企業、本市の公民連携を目指す場づくりなど、支援策をさらに充実させることで、横浜のビジネス環境のさらなる魅力を創出できる。

また、ハード面においても、新港ふ頭のハンマーヘッドパークや新港歩行者デッキの整備、赤レンガ倉庫や帆船日本丸の改修を行うことで、回遊性の向上やにぎわいの創出に取り組んでいる。一方で魅力ある横浜港は外国人も含め、誰にとっても安全・安心の場所であることが大前提となるため、歩行者空間の確保に合わせて、標識などのグローバル化や携帯情報端末を活用した、外国語情報提供環境の整備を積極的に行うことが重要である。横浜市は安全なまちをつくっているということが、誰にでも分かるようにPRもすることも必要である。

ウ 誘客事業

本市は、観光レップによる情報発信、市場把握、旅行会社へのセールス、市場の回復に応じた商談会への参加、リアルタイムな現地の情報収集、誘客の可能性に関する調査・分析、OTAを活用したプロモーションや情報発信等に力を入れている。また、みなとみらいでは、臨港パークから山下公園ま

での水際線に、サインの路面表示を行い、まち歩きガイドブックの配布や、スマートフォン向けアプリによる音声ガイドつき案内サインを観光拠点に新たに設置をしている。単に誘客するだけでなく、実際の観光客が役に立つ情報の周知や環境整備も積極的に推進していくことが重要である。

コロナ禍後、他都市に遅れないようインバウンドの回復を目指すために、横浜の魅力をより効果的に情報発信していく取組が求められている。

(3) 外国人から見た横浜

本市は人口規模でいうと、日本の第二都市ともいえるが、日本人でも、留学生でも、そのような認識を持つ人は意外と少ない。これは、東京に近接しているためか、横浜が個別に認識されづらく、海外から来た外国人にとっては東京の一部であるかのような認識を与えてしまっているためと考えられる。また、外国人観光客の目線からは、横浜は臨港パークや大さん橋、横浜ハンマーヘッド、山下公園などの近代的なウオーターフロントをもつ港町としてイメージされている。ランドマークタワーやヨコハマインターコンチネンタルホテル、ベイブリッジなど象徴的な建造物や、YOKOHAMA AIR CABINなどの特徴的な乗り物もあり、他のグローバル都市と比べても遜色ないレベルの観光資源を有しているといえる。また、食に関していえば、横浜には多様な食文化・食習慣を有する外国人を、満足させることができる多国籍料理店が数多く存在しているが、ベジタリアンやハラール対応に課題が残っているという意見もある。これらは外国人が、横浜に来て初めて気づくことも多く、情報発信や多様な需要に対応できる環境づくりに注力していく必要がある。

(4) まとめ

現在の横浜は、海外の他のグローバル都市に引けを取らない、交通網や建造物、観光資源を有しており、それらを活用しつつ、今なお発展を続けているが、横浜というまち自体が、あまり知られていないというのが、選ばれるグローバル都市に向けた大きな課題だといえる。さらに、ハード面だけではなくソフト面において他都市と差別化を図っていくことで、横浜らしい取組の創出につながると考えられる。横浜に住むこと・横浜で働くことの魅力を高めて、留学生を含む海外からの人材を取り込むこと、また、横浜の子ども・若い世代がグローバルに活躍できるように人材育成を進めること、の両輪が必要である。本市

には、プロスポーツチームも多く存在するので、大規模スポーツイベントを最大限に活用し、スポーツを骨格としたまちとしての情報発信も面白い視点になると考えられる。世界に対して横浜の魅力が効果的に伝わるような、情報発信の仕方を工夫する必要がある。

今後、刻々と変化していく世界情勢においても、新たな状況に、柔軟に対応しながら施策を展開することで、横浜市が世界から選ばれるグローバル都市になるように、取組をより一層推進することを行政当局に期待する。

○ 新たな都市活力推進特別委員会

委員長	荻原隆宏	(立憲民主党)
副委員長	酒井誠	(自由民主党・無所属の会)
同	遊佐大輔	(自由民主党・無所属の会)
委員	大桑正貴	(自由民主党・無所属の会)
同	関勝則	(自由民主党・無所属の会)
同	横山勇太郎	(自由民主党・無所属の会)
同	佐久間衛	(立憲民主党)
同	藤崎浩太郎	(立憲民主党)
同	安西英俊	(公明党)
同	望月康弘	(公明党)
同	みわ智恵美	(日本共産党)
同	こがゆ康弘	(民主フォーラム)